

(続紙 1)

京都大学	博士 (地域研究)	氏名	Yunxi Wu
論文題目	Development of Oolong Tea Industry in Vietnam: Focusing on Its Linkage with Taiwan (ベトナムにおけるウーロン茶産業の発展 —台湾との関係に着目して—)		
(論文内容の要旨)			
<p>東南アジアにおいて、国際的な農業投資は農業発展をけん引しているが、いっぽうで農民からの農地の収奪や環境汚染等の問題も生んでいる。本論文は、台湾による投資を端緒とするベトナムにおけるウーロン茶産業の発展過程を総合的に分析することにより、国際的な農業投資による農業発展を円滑に推進するための基礎条件を明らかにすることを目的とした。</p> <p>第1章では、国際的な農業投資に関する先行研究を踏まえて、ベトナムにおけるウーロン茶産業のための国際投資の特徴を要約し、本研究の目的と本論文の構成を示した。</p> <p>第2章では、ベトナムによる農業投資の制度的制約を明らかにするためにベトナムにおける土地法の変遷を概観するとともに、調査対象地域である中央高地の農業や土地利用と移住プログラムの歴史的な展開過程を提示した。これらを踏まえて、本研究の研究手法を紹介した。</p> <p>第3章では、台湾におけるウーロン茶産業の発展を概観し、国内外の消費拡大に伴い国外に茶葉の生産地を求めたこと、これが国内生産者との摩擦を生み輸入茶葉の品質管理が厳格化されたことを指摘した。</p> <p>第4章では、1990年代半ば以降にベトナムにおけるウーロン茶産業に参入した台湾の投資家が直面した課題と対応を、導入期、拡張期、調整期に分けて検討した。導入期にはベトナム中央高地の自然環境に適した栽培方法の確立と台湾市場の要求を満たす品質管理が課題であり、台湾から専門家を招へいする等により対応したこと、拡張期には茶葉生産の農地の確保が困難となり、地元農家との契約栽培の導入等により対応したこと、調整期には残留農薬に関する台湾側の規制強化が課題となり、契約栽培農家の厳選等により対応したことを明らかにした。また、この過程でウーロン茶の栽培・加工技術が調査対象地域の農家や労働者に移転されたことも指摘した。</p> <p>第5章では、ウーロン茶産業に参入したベトナムの起業家に焦点を当てた。ベトナムの起業家は、他業種からウーロン茶産業に参入し、茶葉の栽培、加工、輸出をビジネスとする企業体、茶葉の栽培を請け負う契約栽培農家、台湾系のウーロン茶加工工場の労働者が独立して小規模な加工工場や仲買を営む起業家からなる。これらの起業家は、台湾におけるボトル飲料の原料となる低品質のウーロン茶市場やベトナム国内で</p>			

の市場を開拓し、ウーロン茶産業の栽培、加工、市場を多様化させることに成功したことを明らかにした。

第6章では、ウーロン茶産業への就労機会が地域住民の生業や生活に与えた影響を考察した。ウーロン茶加工工場での住み込み就労は未だ住居を確保できていない移民にとって格好の就労機会であること、移民は資金を蓄積し農地を購入する傾向にあること、またこのような就労機会があることがさらなる移民を呼び込む一つの誘因となっていることを明らかにした。また、在来の少数民族の女性は、仏領期以降、ベトナム茶の茶葉の収穫作業の経験があり、それを生かしてウーロン茶の収穫作業においても貴重な労働力となっていること、その結果、少数民族世帯では女性が主たる家計支持者となっていることを明らかにした。

第7章では、製品の品質管理について、とりわけ残留農薬の規制という観点から検討した。台湾への輸出業者が、栽培農家における農薬使用をモニタリングする体制を構築し、その結果、ベトナムから台湾へ輸出される茶葉の品質は高い評価を得ていること、地方政府の農業局は、これを補完し、農薬販売店や農家向けの講習会の企画や残留農薬に関する啓蒙活動を展開していることを明らかにした。品質管理については、現状では輸出業者と農業局の活動が効果的に機能しているが、さらに規制が強化される場合には大きな課題となると指摘した。

第8章では、主たる研究成果を要約するとともに、台湾による投資を端緒とするベトナムにおけるウーロン茶産業の発展を、台湾とベトナム双方の関係者によるさまざまな課題に対する柔軟な対応と生産－消費連関の多様化の過程であったと結論付けた。